静岡県森町〈定住推進課〉

〒437-0293
静岡県周智郡森町森2101-1
TEL.0538-85-6321
FAX.0538-85-4419
http://www.town.morimachi.shizuoka.jp/

発行日／平成30年（2018年）7月

幸せ、豊かさ、てんこ“森”

TENCOMORI

静岡県森町移住のススメ

繋がり集えば、てんこ森。
みんな寄り添う、
つぶぞろいの町。

特集
森町に移住した4家族と若者の物語。

自然豊かな古民家で子育て堀尾さん
妻は農業、夫は珈琲店早川さん
憧れの〈森〉でハンターに坂本さん
天空の里に棲むジュエリー作家プラナスさん
森町地域おこし協力隊第1号岩瀬さん

2018
vol.1

Everyone! Come here

みんな!
おいでよ森町へ

2017年・森町移住の
堀尾さん一家

夫・堀尾秀之さん、静岡県浜松市出身。妻・京子さん、静岡県旧水窪町出身。長男・虎太郎(こたろう)くん(5歳)、長女・優月(ゆづき)ちゃん(2歳)。

森町移住の経緯

三重県鈴鹿市→森町三倉地区中村へ

秀之さんの仕事の関係で三重県鈴鹿市に9年ほど住んでいたが、京子さんの父の病気を機に、子育ての環境を考え森町への移住を決意。両親との同居を経て2017年10月、三倉地区中村に築100年を超える古民家を購入し、森町での生活を始める。

子育てを第一に優先し、環境の良い森町を選びました。

カーテンも仕切りもない開かれた家

朝6時。朝もやが消え、ウグイスの声が山あいに響くなか、三倉地区中村にある堀尾家を訪問。すると、5歳になるお兄ちゃんの虎太郎くんが家の前で「おはよう!おうち、ここだよ」と、元気よく出迎えてくれました。大きなガラス窓の向こうには緑豊かな山の風景が広がっています。太い梁や柱など100年を超える古民家の良さを生かしつつ、無垢の杉板の床に欧風の薪ストーブ、あ、カーテンが見当たりませんね。

「うちはカーテンがないんです。外は車も人も通ることがなく、鹿が通るくらい(笑)。朝、お日様が昇ると、子どもたちも自然に目が覚めるし、夜は星がすごくきれいですよ」と、妻の京子さん。周りはお隣さん1軒と畑があるだけ、という奥まった場所にあり、広々とした空間なので、安全に子育てするのには良い環境だと思ったそうです。

「古民家をリフォームするにあたって、繋がりのある部屋にしたかったので、間仕切りのない家にしました」とご主人の秀之さんが話すように、確かに部屋には、壁や戸がありません。よく目が行き届き、子どもが伸びやかに育つ開かれた家は、ここだから実現できた理想の住まいです。

100年を超える古民家を、和モダンにリフォームした住まい

堀尾家の“団らん”は朝食タイム

朝6時半。さあ、朝ごはんの支度ができました。2歳の妹の優月ちゃんも「かあちゃん、ここでいい?」とお手伝い。テーブルには、湯気の立つ味噌汁とごはん、サバの塩焼きに野菜のナムル、シラス、たくあん、隣の畑で育てたミニトマトも並んでいます。みんな揃って手を合わせ、「いただきまーす!」。

公営競技のゴールの写真判定という仕事に携わっている秀之さんは、浜松から愛知県の蒲郡市、三重県の松坂市、遠くは富山県まで広範囲のエリアを担当しているため、帰宅が遅くなることもしばしば。なかなか家族と夕食を共にすることができません。「ですから、我が家では朝食が“団らん”。一日の中で最も大切な時間なんです」と夫妻は口を揃えて話します。それにしても、通勤が大変じゃありませんか?

「森町には高速道路のインターが2つありますし、どこに住んでも特に不便だと思ったことはないですね。それより、子育てに良い環境という点を重視してここを選びました」。

自然の中で遊び、体験し健やかに育ってほしい

朝食を済ませると、虎太郎くんが幼稚園に行く準備を始めます。集合場所からは町で出す送迎タクシーがありますが、そこまでは母子で歩きます。「私自身、田舎で育ち、とてもいい経験をしたと思っているので、子どもたちにもできるだけ自然の中でいろんなものを見て聞いて、体験をしてほしいですね」と京子さん。

間仕切りがなく開放的なリビング&ダイニング

朝の散策は、いわば自然学習の時間です。虫が大好きな虎太郎くんにとっては天国。お母さんにとっても楽しみがいっぱい。「花や鳥のことが知りたくなり図鑑で調べようかな、とか、夏には山登りを家族でしたいから一緒に歩けるようにとか、やりたいことが次々出てきて」。子どもだけではなく、親の夢も広がっていきます。

夜は星空を眺めて眠り、
お日様と一緒に
子どもたちも早起き。
家族そろって
「いただきまーす!」

地域に育てられる子どもたち

「隣のおじいちゃん、好き!」と話す虎太郎くんと優月ちゃん。都会では挨拶をしたり声を掛けたりするのも敬遠してしまいますが、ここでは地域の人と親しく付き合うことで、子どもたちにとって安全で安心な環境になっています。

「地域の人々に見守られ、育てられていると感じています。来年、虎太郎は小学校に上がりますが、そこでは少人数ならではの、子どもの自主性を育む教育をしているんですよね。発表会や運動会などに地域の人たちが参加して、とてもいい雰囲気なので、楽しみです」。少子高齢化が進むなか、この地域には堀尾さんと同世代の一家が何世帯か移り住み、子どもも増えているそう。伸び伸びとした環境で暮らす、虎太郎くんと優月ちゃんの成長、みんなで見守りたいですね。

住まいは幹線道路から入った突き当りにある

目の前に広がる緑豊かな自然

2012年・森町移住の
早川さん夫妻

夫・早川直之さん、静岡県磐田市出身。愛知県の大学を卒業後、静岡県掛川市の会社に就職。妻・幸恵さん、福島県いわき市出身。新潟の大学を卒業後、静岡県袋井市の会社に就職。

森町移住の経緯

静岡県内→森町→千葉県→森町天方地区黒石へ

2007年、築100年以上経つ古民家を購入し移住。直之さんが東京の会社に転職したのを機に森町を離れ千葉へ。2012年、森町に戻る。幸恵さんは職業訓練校を経て2014年に屋号「百姓人」として農業で独立。直之さんは2017年に自家焙煎珈琲専門店「百珈」を開く。

妻は農業女子、夫は焙煎珈琲専門店。自分流の生き方を森町で実現。

「古い家に住みたい」たどり着いたのが森町でした

早川夫妻が結婚を機に森町へ移住したのは11年前。当初は直之さんが掛川の会社に勤務し、幸恵さんが袋井の会社だったことから、袋井周辺で古民家を探していましたが、なかなか見つかりません。そんな時、森町の秋葉街道沿いの物件を紹介され、「念願の古民家で価格も安かったのですぐに購入、移住を決めました」。仕事の合間を縫い、二人で1年ほどかけて改修したそうです。築100年以上の家なので耐震工事も大事。「森町は耐震補助がこの辺りの地域で最も手厚いんですよ。当時、県からの補助45万に加えて町から60万。見積もりをとったら120万だったので、15万の自己負担で済みました」。

ところが、住み始めたのも束の間、直之さんが東京の会社に転職することに。「一度は東京に出てみたかったんです」と直之さん。早川夫妻は翌年、森町に家を置いたまま千葉に引っ越し、都会暮らしを始めました。

夏は森町特産トウモロコシの最盛期。10か所ある畑はすべて自宅から車で5分以内

都会暮らしを経験して改めて知った森町の良さ

「確かに、東京は刺激的でしたが、すぐに飽きてしまいました。僕は夜勤が多く、妻は日勤。一緒に過ごせないし、何をするにもお金がかかり、なかなか貯金もできませんでした」と当時の都会での暮らしを振り返ります。そして2011年3月11日に起きた東日本大震災により、都心もライフラインが途絶え、直之さんは帰宅難民を経験。「これではお互い、事故に遭ってもわかるかどうか。こんな暮らしを何十年と続けたらどうなるんだろう」と、直之さんは怖くなったそうです。

幸恵さんは、故郷のいわき市が甚大な被害を受けたことから、親族を連れて森町の自宅へ一時避難。「地域の人たちが本当に温かく迎えてくれたんです。何てやさしく、いい人たちなんだろうと、親切が身にしみました」と幸恵さん。都会では近所付き合いもなければ、会話もありません。「たとえ収入が少なくなっても、もっと、自分たちらしくゆっくり暮らしたい」。早川夫妻は再び森町で暮らす決心をしました。

自分の裁量で行う農業は面白く、可能性があります

幸恵さんは、職業訓練校と農家の研修を経て、「百姓人」という屋号で独立。国と県からの無利子の融資と、国の事業である農業活動資金の補助を受けたことで、安心して始められたといいます。「森町は温暖な気候で農業がやりやすく、特産物がたくさんあります。JAを通して名古屋や東京に安定した価格で出せることも有り難いですね」と、幸恵さん。現在、自宅から2分と5分のところに畑を10カ所、計1町歩（約1ヘクタール）借りて、初夏から夏にかけてトウモロコシ、そのあとは紅心大根を主に、季節の野菜を少量栽培しています。

「今はお洒落な農業女子が増えていて、昔のイメージはありません。男性は拡大することに懸命ですが、女性は加工や食べ方、提供の仕方など消費者目線で考えるので面白いし、事業としての可能性も広がると思います。また、自分の裁量でできるし、四季の変化を感じるところも、私には合っていますね」と幸恵さん。「今は一人ですが、だんだん人を雇用して森町の活性化に役立ちたい」と夢は膨らみます。

自家焙煎した豆を挽き、1杯ずつ丁寧に淹れる

たとえ収入が少なくなっても自分たちらしくゆっくりと暮らしたい。

「地域の拠点になってほしい」と早川夫妻

地域唯一の焙煎珈琲専門店はみんなが集う交流の場に

一方、直之さんは好きなコーヒーを究めて生業にしようと、東京にある焙煎珈琲の先駆け的存在の「カフェ・バッハ」で知識と技術を学び、焙煎珈琲の専門店「百珈」を古民家をリフォームした自宅で始めました。「黒石に店ができるのは画期的だと、地域の方々が花輪を出して応援してくれたので、嬉しかったですね」。「通勤0分ですから」とゆったり流れる時間を愉しんでいるように見えます。

「森町には、美味しいお菓子屋さんがたくさんあるので、月替わりで各店のスイーツをお出ししています。まだまだ僕たちができることがあると思っています。地域の方々の安らぎの拠点であると同時に、森町へ移住したいな、という人がいれば、窓口になりたいですね。移住してきた先輩ですし、長くこの町に住みたいですから」と直之さん。森町は祭りにかける情熱がすごく、町内会の集まりも数多いため、なかなか他地域の人は入りにくいという声も耳にします。「森町の人は関わってみるとみんないい人たち。地域に溶け込むには、人を好きになるのが一番だと思いますよ」という、お二人の言葉と笑顔が印象的でした。

「百珈」の大きな暖簾

古民家を改修した自家焙煎珈琲屋「百珈」。
入口には、トウモロコシやネギなど、旬の農作物が並ぶ

Everyone! Come here

みんな!
おいでよ森町へ

2017年・森町移住の
坂本さん

坂本綾子さん。愛知県刈谷市出身。介護の専門学校卒業後、介護士として勤務。結婚を機に退職。わな猟免許、網猟の免許を保有し、趣味と実益を兼ねながら、狩猟とグラフィックデザインを行っている。

森町移住の経緯

愛知県刈谷市→静岡県掛川市→森町天方地区西俣へ

熊本県出身のご主人と結婚。当初は静岡県掛川市周辺で古民家を探していたがなかなか見つからず、森町に住む狩猟仲間の紹介で見に行った一軒家に一目惚れ。120坪の土地にガレージ付きの中古輸入住宅を購入。2017年6月に移住し憧れの生活をスタートした。

憧れの「森」で、趣味と仕事を両立する暮らし。

小さい頃から自然が好きだった狩猟ガール

坂本綾子さんが生まれ育ったのは愛知県刈谷市。「工場地帯で、目の前を車がバンバン通る環境でした。堤防はあったけど、森はありませんでしたね」。小さい頃から鳥や動物が大好きで、よく山へ出掛けて遊んでいたといいます。もともと自分で捕ったものを食べることに興味があった綾子さんは、魚釣りから始まり、「肉も自分で捕って調理し、食べたい!」と思うようになり、わな猟と網猟の免許を取りました。

ご主人の仕事の関係で掛川市に住むことになりましたが、実は静岡県内の狩猟免許試験場で偶然にも森町の同年代の女性と出会い、狩猟を通じて交友が始まっていました。

「イノシシの解体場へ一緒に行き、尊い命を無駄なく頂くということを経験し、より狩猟への興味が高まりました」と綾子さん。森町に住む前から、すでにこの地との縁が結ばれていたようです。

畑を見下ろす丘、獲物の通り道に設置されるわなの檻

理想の住まいと出合い、森町へ移住を決心

結婚を機に掛川市のアパート暮らしを始めた綾子さんは、古民家を探し始めます。ところが、なかなか掛川市周辺では見つかりません。「ずっと森の中に住みたいと憧れていたんです。だから、掛川市に来て〈森町方面〉と書かれた青い案内標識を見たときは、この先に森があるんだ!と感激しました」。そして、県内の試験場で出会った森町の狩猟仲間が探してくれた情報と、紹介された物件が一致。古民家ではなく中古の欧風住宅でしたが、利便性と里山の良さを兼ね備えた、綾子さんにとって、まさに理想の住まいでした。

「家に一目惚れしちゃったんです。自然が近く、すぐに狩猟ができるし、静かな環境でデザインの仕事もできます。高速道路のインターに近いし、川があるから釣りもできるし。掛川市の主人の勤務先にも車で30分〜40分で行けますから。偶然が重なり、憧れの〈森〉の町だし、もうこれは運命に違いない」。そう考えた綾子さんは、「家賃分でローンが払えるし、いざとなったら私が何とかするので、今はお願いします!」とご主人を説得し、森町へ移住したのでした。

お気に入りの欧風住宅

ステッカーやアイコンなど、デザインの仕事も手掛ける

夫の出勤後、わなの見回り。夢はジビエ料理研究とデザイン

朝7時20分。夫にお弁当を持たせて見送り、朝ご飯を食べて一息つくと、仕掛けたわなの見回りへと出掛けます。箱わなを仕掛けている場所までは、1か所が車で3分、もう1か所が1、2分という近さ。「ここは、動物たちが行き交うメインストリートなんですよ」と、山を背景に畑を見下ろす場所にある檻(オリ)の前で、綾子さんが説明してくれました。

たとえ捕獲されていなくても、「撒いたエサの状態を見て、どのくらいの大きさのどんな動物がどうやってエサを食べてどこからどこへ向かったのかを判断します」。動物がわなに入ると、猟友会の仲間に連絡し、その日か翌日に解体するそうです。

イノシシやシカによって畑が荒らされるなど里山の被害は年々増えているため、冬場の猟期以外も有害鳥獣駆除の目的で狩猟は行われています。綾子さんは「一つの命をいかに無駄なく、使い切るかが私のテーマ」と言います。一般家庭でも美味しく食べられるジビエの調理法を研究中。また、有害鳥獣の利活用に取り組む有志のグループ「狩花(カリフラワー)」の一員としても活動しています。

昼はデザインの仕事をしている綾子さん。SNSなどのアイコンやステッカーを作ったり、「狩花」のTシャツをデザインしたり、親しい人からの依頼を受けています。「ガレージをリフォームして工房を作り、もっとデザインの仕事を広げていきたいですね」と、森町をフィールドとした綾子さんのライフワークは続きます。

鳥がさえずり、緑がいっぱい。
家の近くで狩猟できる
森町への移住は運命だと思う。

エサの減り具合や仕掛けをチェック

捕獲したイノシシ

Everyone! Come here

みんな!
おいでよ森町へ

2014年・森町移住の
プラナスさん一家

夫・フランセスク プラナスさん、スペインのバルセロナ出身。ジュエリー作家。妻・美智子さん、静岡県駿東郡長泉町出身。現在は袋井市にある国際交流協会に勤務。あいら君（小学4年生）

森町移住の経緯

スペイン→静岡県袋井市→森町三倉地区大久保へ

美智子さんが陶芸を学ぶため渡ったスペインでフランセスクさんと出会い、2000年に結婚。あいら君の誕生後、2009年家族で日本へ。袋井の美智子さんの実家に住みながら家探しを始める。大久保の景色と知人に紹介された古民家を一目で気に入り、2014年森町に移住。

茶畑と星空がきれいな里山と日本家屋の美に魅了されて。

パノラマ風景に感動し、自動車免許を取得！

陶芸を学ぶ目的でスペインに行った妻の美智子さんは、「1年で帰ってくるつもりが12年も住んでしまいました」と話します。そこで出会ったご主人のフランセスクさんは、14歳で師匠に弟子入りして腕を磨いたジュエリー作家。「小さい頃から兄と遊んだ日本製のフィギュアや黒澤作品など、日本の文化に興味を持っていました。妻も日本人ですしね」と、日本の話になると熱くなり、止まりません。東京にも住んだけれど、自分の価値観と照らし合わせると日本の風土にあった営みのある森町のここが自分に合っていると、感じたそう。

「街はたまに行って新しい文化を吸収するところ」と考えるフランセスクさんは、初めて訪れた森町で、見晴らし良く、眼下に広がる三倉・大久保の風景に魅了されてしまいました。地元の木材を使い伝統的技術で丁寧に作られた古民家も気に入ったのでした。「空、雲、星、茶畑、すべてがきれい。住むならこういうところがいい。心も体も健康になります」。ところが、スペインでは自転車に乗っていたフランセスクさんは、それまで自動車の運転免許を持っていませんでした。山の上にあるこの家に住むなら運転免許は必須。そこでフランセスクさんは生まれて初の運転免許をポルトガル語で取りました。

あいら君は、父が自宅の仕事場で作業する姿を幼い頃から見て育った

出勤する美智子さんに夕食を作るフランセスクさん

プラナス家の起床は6時前。「和食の時もあればスペイン風の時もあります」という朝食を済ませ、美智子さんは車で7時20分過ぎに家を出て、あいら君をバス停まで送り、そのまま袋井の職場へと向かいます。

フランセスクさんは日中、ジュエリー製作や草刈り、近所の人の手伝い、家の改修作業を行い、夕方はあいら君のお迎え、夕ご飯の支度もフランセスクさんの役割です。「遠く離れた母国の食文化を息子に伝えたいとカタルーニャの郷土料理を愛情込めて作ってくれます」と、笑顔で話す美智子さん。

あいら君はお父さんとスペイン語で、お母さんとは日本語で会話しています。見ていると、父子の距離もぐっと近い感じ。フランセスクさんがジュエリー製作する様子を見る表情も真剣です。「仕事しているパパはかっこいいと思う。僕も何か作りたいな」とあいら君。お母さんのことは「ママは働き者で、すごいと思う」と照れながら話してくれました。

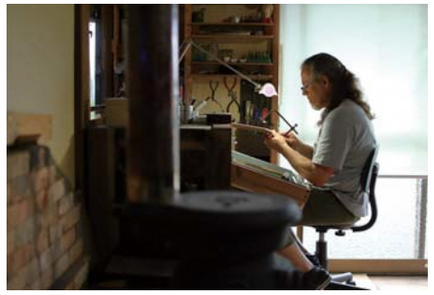
近所の人に教わり地域に溶け込んでいく

「植物のこと、鳥や虫、動物のこと、畑の作物のこと、祭りや伝統、しきたり、文化のこと、みんな近所の人たちが教えてくれます。時々一緒にお茶することもあります。大自然に囲まれながら、家々がほどよい距離感で点在しているので安心できます」と、プラナス夫妻。あいら君も可愛がってもらっていて、回覧板を届けるなどお使いに行った際、手作りこんにゃくやアイスをいただくそう。

「少し町から離れるだけで、質の良い生活環境が手に入るのですから最高の贅沢です。しかも息子の通う三倉小学校は小規模で皆の顔の見える関係。三倉の自然を生かした課外活動がたくさんあり、地域の人たちとの関わりも強い貴重な教育環境での子育てにも満足しています。スペインだったら多くの親が望むでしょう!自然の移り変わりを日々肌で感じる生活、自然界と私達の営みとの関わり、今後、あいらにきっとプラスになるはず。バルセロナという世界都市と対極にある日本の田舎暮らしの経験が、あいらの人生観を築くエッセンスのひとつになればと願っています」と、プラナス夫妻。

集中してジュエリーをつくり
疲れたら緑を眺め、家族と語ら
求めていた日本の暮らしが
ここにある。

銀や金で指輪やペンダントなどのジュエリーを一つひとつ仕上げていく



自宅の前に広がる山並みと茶畑の大パノラマ

プラナス一家は全員がアーティスト

美智子さん作

あいら君作

少しずつ家族みんなで古民家を改装中

Everyone! Come here

みんな!
おいでよ森町へ

2016年・森町移住の 地域おこし協力隊の 岩瀬さん

岩瀬進哉さん、静岡県浜松市出身。東京での大学生活、建築関係の仕事を経て浜松に戻り、地元の工務店に勤務。現在は森町地域おこし協力隊の第1号として活動する傍ら、ゲストハウス「森と町」を開業。

森町移住の経緯

静岡県浜松市→東京→浜松市→森町森地区新町へ

務めていた浜松の会社を辞めた後、1年間農業研修をしながら全国を回る。森町天方地区に研修で1か月ほど滞在し、森町に住みたいと思うように。地元の人から地域おこし協力隊の募集があることを聞き応募。2016年9月からの採用に合わせ、森町に移住した。

森町地域おこし協力隊、第1号。町のPRマンとして活動中！

森町に住みたくて 地域おこし協力隊に応募

地域おこし協力隊の募集は全国のさまざまな市町村で行っていますが、岩瀬さんはどこでも良かったわけではなく森町だから応募したそうです。「田舎暮らしへの憧れがあり、農業研修を受けながら全国を回りました。森町でも研修制度を利用しながら、薪でお風呂を沸かすような山の中で1か月間暮らしたんです。自然は豊かだけれど、そんなに不便じゃない。実家のある浜松から近いところに、こんないいところがあったんだ、と思いました」。

森町の場合、毎月の報償費のほか、家賃や車輌使用などの活動に必要な経費への補助金が出ます。勤務は月20日間が基本で、業務内容は森町の情報発信と自然を生かしたグリーンツーリズム促進など。住民票を森町に移すのが条件の一つで、任期は最長で3年だそうです。岩瀬さんは、協力隊を目指す人へ「スキルがある人も働いたことのない若者も、やる気さえあれば協力隊は面白い仕事だし、あなたにとって森町は良い場所になるはず」とアドバイス。

岩瀬さんは任期満了後を見越し、森町に住み続けるために、自宅を改装し、ゲストハウス「森と町」を昨年オープンしました。その話は、また後半で。

自宅は事務所兼案内所であり、ゲストハウスでもある。移動はもっぱら自転車

発信した森町の魅力が伝わり 移住してくれたら嬉しい

「最初は何をしていいかわかりませんでしたが、自由にやらせてもらえるので、アクティ森や森町ツーリズム研究会の作業の手伝い、珍しい半夏生の群生地の整備の手伝い、イベントのホームページ作成、マウンテンバイクの企画、プロモーション動画などいろいろ行っています」と岩瀬さん。その動画が、森町の魅力をいっぱい表現していて、ハイレベルな仕上がりなのです。

「動画が得意な仲間に加わってもらい、1年がかりで撮影し作りました。この動画を見た人がゲストハウスに泊りに来て、森町で家探しをしています。嬉しいですね」。プロモーションビデオは町役場で流れているほか、ホームページの地域おこし協力隊募集にも使われています。

自宅1階は事務所兼交流拠点、2階はゲストハウス

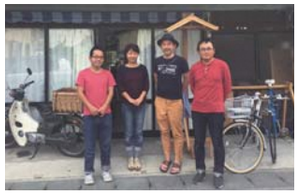
岩瀬さんの住まいは、古い町並みが残る、森地区新町。近所にはジェラートが有名なお店や今も人気の麹店、和洋菓子店などもありますが、以前に比べて賑わいがなくなっていました。そこで、岩瀬さんは、まず1階に地域おこし協力隊としての活動を行う事務スペースと、交流スペースを設けました。ホームページの更新を行ったり、仕事の打合せを行ったり。マウンテンバイクツアーの説明や観光案内、経験を生かして移住の相談にも乗っています。

そして、2階を宿泊施設として改装し、2017年8月にゲストハウス「森と町」をオープン。日本らしい民家に泊りながら自然体験ができるとあって、外国人にも評判だそう。「オープンの際、告知を兼ねて、浴衣を着て訪れてくれた人にかき氷をサービスする森町バルを企画したんです。そうしたら、近所の人が金魚すくいやヨーヨー釣りの準備をしてくれ、ちょっとしたお祭りムードに。地域の方々の協力が嬉しかったですね」。岩瀬さんのやる気を感じた地域の友人が「自分たちも何かやろう」と動き始め、このバルは範囲と規模を広げ、今年も開催。もともと同級生や祭りの結束が強く、繋がりを大切にする森町の人々は、「ここを拠点に宿泊客や観光客が増え、移住にも繋がれば」と岩瀬さんの活動を応援しています。

岩瀬さんが営む
ゲストハウス「森と町」

屋号「森と町」と小さく書かれた藍色の暖簾が目印

階段を上がるとゲストハウス



常連ゲストとの記念写真

居間は宿泊客が自由に使える
オープンスペース

趣きのあるゲストハウスの和室は人気

人の繋がりで今の自分がある。
森町の良さを伝え、人を繋ぐことで
今度は自分が橋渡しをしたい。

マウンテンバイクのツアーを
毎月主催。チラシ作成や受付、
ガイドも岩瀬さんの仕事だ

森町のプロモーションビデオ
「森町フェリンダ」を仲間と一緒に製作

1階土間は、仕事の打合せから
観光案内、移住の相談まで行う
マルチな交流空間

森町はただの田舎じゃないよ！

Morimori life

暮らしの森町自慢

＼ 森町ってこんなトコです。 ／

豊かな自然、歴史を感じる街並み、古来より受け継がれてきた祭りや文化がぎゅっと詰まっている森町。温暖な気候と恵まれた環境に加え、人を育む教育に力を入れていて、「お達者度」静岡県トップクラスと、子育てにも終の棲家としてもふさわしいまちです。

恵み ／産業

温暖な気候に恵まれているため、農業が盛んで、水稲・茶・メロン・次（治）郎柿・トウモロコシ・レタスなど特産品が豊富。山間部では、シイタケなどの栽培や林業も営まれています。また、町内に2つのICがある新東名高速道路をはじめ交通網が充実していることもあり、豊田合成やヤマハモーターエレクトロニクスといった輸送用機器産業など製造業が盛ん。町北部の山村地域、中部の商工業地域、そして南部の農業地域と、市街地と農山村地域のバランスが取れているところが、森町の特長です。

足あと ／歴史

秋葉街道・塩の道の宿場町として栄えた森町。格子戸の町屋や路地裏の土蔵は繁栄の名残で、由緒ある寺社も歴史を物語っています。舞楽や祭りなどの伝統・文化が大事にされてきたことが認められ「全国京都会議」にも加盟。「遠州の小京都」として、美しい町並みと景観、伝統・文化、環境づくりに取り組んでいます。

出会い ／町民イベント

秋葉街道の面影を残す旧家や古い蔵、商店などを開放して開催される「町並みと蔵展」では、地元の歴史資料、絵画、古民具などの展示や地場産品の販売が行われ、町外からも大勢の観光客が訪れるほど人気。また、家の前に和紙張りの行灯をともす、夏の夜の風物詩「森ほたる」は、町民の手作りイベントです。

愉しむ ／文化施設・体験施設

森町には、有名歌手や劇団の公演が行われる森町文化会館「ミキホール」があります。また、緑の山々や清流を眺めながら、パターゴルフやテニス、カヌー、サイクリング、バーベキューをしたり、陶芸、和紙すき、草木染めなどを体験したりできる「アクティ森」などの体験施設も充実しています。

「豊かな人生」
=「愉しむこと」

集い ／祭り

森町は伝統文化や歴史的資産が豊富で、人々の生活の中に息づき、受け継がれてきました。「森のまつり」は、14台の屋台が曳き廻される、町民にとって最も大事な行事。また、小國神社、天宮神社で行われる「十二段舞楽」や、山名神社の祇園祭の芸能や3年に1度の「石松まつり」などの祭礼も多くの人々が集います。

味わう ／銘菓

小さな町なのに、森町には老舗の和菓子屋がたくさんあります。梅衣や治朗柿羊かん、味噌まんじゅう、栗蒸し羊かんなど、お茶と和菓子が今も町民に愛されています。味から知る森町も魅力的ですよ！

学ぶ・育てる

みんなで育てる森っ子。

地域全体で子どもを育てるという教育理念のもと、地域の特色を活かした「幼小中一貫教育」に取り組んでいます。放課後の安全な居場所づくりのため、空き教室を活用し、町内すべての小学校で「放課後児童クラブ」や「放課後子ども教室」も開設。また、待機児童解消のため、0歳から3歳未満児の子どもを預けることができる「もりの保育所」があり、調理師の愛情たっぷり手作りメニューで子育てを応援。子育て支援や教育内容の充実を図り、若い世代が結婚・子育てに希望を持てる町づくりや、豊かな人間性を育む教育など、地域全体で子どもの教育をサポートしています。

健やか 福祉・健康

「みんな達者」がいちばん。

入浴施設「もりの湯」や子どもたちが伸び伸び遊べる「森町児童館」、仕事と子育ての両立を応援する「もりの保育所」がある保健福祉センター、トレーニング室も完備する森町総合体育館「森アリーナ」など、子どもから高齢者まで利用できる施設が充実。さまざまなスポーツイベントや運動教室なども開催されています。福祉・介護サービス、ご当地体操などにより静岡県内、男女ともに「お達者度1位」(2015年)となり、その後も上位をキープ中。
※「お達者度」は、健康長寿を推進する静岡県が独自に算出する指標で、65歳から元気で自立して暮らせる期間(年数)のこと。

公立森町病院

急性期・地域包括ケア・回復期リハビリテーション病棟の3病棟。

子育て支援

1 こども医療費助成制度

・高校生年齢まで、入院は無料(食事療養費は助成対象外)
・小中学生は、通院1回500円の自己負担
(月5回目以降は無料)
・未就学児は、通院入院は無料
※2018年10月より開始予定

2 森っ子出産祝い金

※交付には、条件があります。
詳しくは、保健福祉課保健係まで。

3 子育て応援情報誌「もりっこ」

子育て中の人や妊娠中の人に、必要な情報のほか、医療、教育、公園などの情報を掲載し、配布しています。

4 子育て応援モバイル

出産予定日などを登録すると、妊婦健診のスケジュール表が自動で作成され、検査日が近づくとメールでお知らせしたり、予防接種スケジュールの自動案内や乳幼児の健康診査などタイムリーな情報を届けたりするなど、産前、産後をサポートするシステムを提供しています。

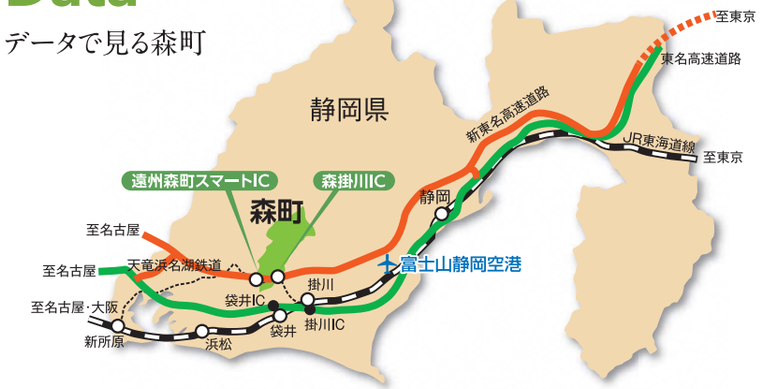
5 預かり保育

町内すべての公立幼稚園で預かり保育(保育時間の延長)を行っています。

Morimachi Data

データで見る森町

森町は、三方を小高い緑の山々に囲まれ、美しい自然環境と共存して発展してきた町です。町の北部が山村地域、中部が商工業地域、南部が農業地域と大きく3つに分かれています。



人口総数／18,544人
外国人／290人
面積／133.91km²
駅数／5駅
町内幼稚園／6園
町内小学校／5校
町内中学校／3校
町内保育園／3園
都市公園／11ヶ所
小規模公園／5ヶ所
路線バス／3路線
自主運行バス／3路線
※平成30年1月1日現在

標高	最高(最北端)	941m
	森町役場	43.2m
	最低(最南端)	15.4m
広さ	東西	13km
	南北	24km
	面積	133.91㎢

地区別人口・世帯数

(平成30年1月1日現在)

地区名	三倉	天方	森	一宮	園田	飯田	合計
世帯数	313	411	2,640	622	1,163	1,385	6,534
人口	783	1,191	7,196	1,857	3,470	4,047	18,544

交通の便

新東名高速道路で「森掛川IC」から東京まで2時間40分、名古屋まで1時間35分。
一般自動車道で袋井市まで25分、浜松市まで50分。
天竜浜名湖鉄道で遠州森駅から掛川駅まで25分。

移住情報

森町空き家・空き地バンクで暮らしに合った住まいを探そう。

町内にある「空き家」や「空き地」の物件情報を、町のホームページなどで提供する仕組みです。売買や賃貸を希望している所有者と利用希望者とのマッチングを行います。

住宅関係補助金・制度

地域材利用木造住宅推進補助金、木造住宅補強計画策定事業、木造住宅耐震補強助成事業、山村定住資金(リフォーム)など、様々な補助制度を設けています。
※交付には、条件があります。詳しくは、下記お問合せ先まで。

森町 定住推進課 移住交流係
電話:0538-85-6321
E-Mail:teijyu@town.shizuoka-mori.lg.jp

森町役場定住推進課 移住交流係の山中に気軽にご相談ください!

こんにちは。2018年4月に新設された「森町役場 定住推進課 移住交流係」に所属しています。ここでは、移住を考える方からの質問に答えたり、関係する課を紹介したりと、移住にまつわる全ての窓口となっています。
森町は、山々に囲まれ、清らかな川が流れる、自然がいっぱいの町です。夜に見える星空も、絶景です。その一方、学校、病院、スーパー、銀行、コンビニ、ホームセンターなど、生活に必要な施設も町内に揃っています。新東名高速道路ができてからは、最寄りの2つのインターから東京方面や大阪方面など、様々な場所に行きやすくなり、ますます便利になっています。
私は、学生時代に中京圏の都市で一人暮らしをしていましたが、近くにあまり自然がない生活でした。森町は山や川が身近にあり、自然を感じるにはとてもよい町だと思います。森町に移住したい方を応援させて頂きますので、連絡をお待ちしています!些細なことでもお気軽にお問合せくださいね。

■山中さんの好きなこと・特技
英会話(かじる程度)、
プロ野球観戦、読書、
オセロ日本6位(小学4年のとき)

地域おこし協力隊の協力により作成された、森町のPR動画「Morimachi Tourism Short Movie」を配信中!